

探究では「リアルな体験」を、 必要なスキルは教科学習で習得

京都府・京都市立日吉ヶ丘高校

探究学習とつながり、
教科学習を社会に開く

山上隼人

やまがみ・はやと 同校に赴任して6年目。進路指導主事。国語科。

探究学習に必要なスキルの
育成を教科学習に委ねた

廣木大雅

ひろき・たいが 同校に赴任して7年目。企画推進主任。理科。

〈京都市立日吉ヶ丘高校の探究学習〉 現在の自分を認識し、自らの挑戦によって自分の境界を越えていく「越境」をキーワードに、「総合的な探究の時間（キャリアゼミ）」を1・2年次に実施している。自分とは異なる他者、そして社会に触れる中で自分の世界を広げ、新しい価値を創ることができる「世界をつなぐ越境者」の育成を目指す。2023年度からは『自分らしい、よりよい生き方』×『他者・社会へのかかわり』を共通テーマに、生徒はチームごとに解決したい社会課題を設定し、探究学習に取り組む。

つながりの目的

実体験の充実のために
教科学習と連携



廣木 「キャリアゼミ」では、探究学習を進める上で必要となるスキルや型の習

得以上に、生徒の知的な興味・関心、エモーショナルな動機に基づいたリアルな体験を重視しています。近年、生徒の進路実現の点でも存在感が増している総合型選抜では、体験の中での気づきや学びを、自分ならではの志望理由に昇華させることができているかどうかが見られることもあり、進路指導部からも生徒が自由に、とことん挑戦できる環境づくりが求められています。

とは言え、探究学習の充実にはスキルや型も必要です。そこで考えたのが、探究学習と教科学習との連携であり、その1つが、山上先生の国語の授業と連携して行った、「振り返り」『プレゼンテーション』など、探究学習に必要なスキルの育成です。山上先生とは理想の学校像や教師の役割について本音で話してきました。山上先生と本校の探究学習のあり方を語り合う中で、探究学習に必要なスキルを各教科で育むような連携を目指そうと考えたのです。

※プロフィールは、2024年3月時点のものです。

探究学習にこうかかわった……

学びに必要な言葉の活用を丁寧に指導



山上市 人は思考の言語化を通して他者と問題意識を共有したり、新たな考えを発見したりします。言葉の活用も扱う国語の中で、ディベートやプレゼンテーションの準備過程を丁寧に指導することで、探究学習の質が上がると考えました。

例えば、「現代の国語」では、「書く」とはどのような営みかを深く考えさせました。私たちは、どんな時に書くのか、書くことで何が得られるのかを理解することで、探究学習での振り返りが「やらされている作業」から「意図を持って主体的に取り組む作業」へと変わります。

また、12コマを使って文献リサーチ、スライド・原稿作成、ペアでの推敲など、実践的な準備過程に焦点をあててプレゼンテーションに取り組みました。そのほか、「根拠と主張のつながり」を考えて論理的な商品レビューを書く「論理の展開を予想しながら聴衆を納得させるディベートをする」など、多様な言語活動を国語の授業で行って

きました。

国語の授業で、話す・聞く・書く・読む力を身につけるのは、そうした力が実社会で求められるからでもあります。本校の探究学習は、社会に開かれたリアルな体験の場ですから、国語を始めとする各教科の学習が探究学習と連携すれば、各教科においても社会に開かれた学びが実現します。そして、生徒には、探究学習の中で行動を起こす過程で、様々な資質・能力の重要性に気づいてもらい、それらの習得への渴望感を持って、各教科の学習に臨んでもらいたいと考えています。

今後の探究学習を展望する……

探究学習と教科学習を対立させてはいけない



廣木 本校では毎年1月、探究学習の成果を1・2年生合同で発表する「越境祭」が開催されます。2023年度の越境祭を見て感じたのは、発表内容から派生した想定外の質問にも堂々と答える生徒が増えたことです。それは明らかに国語の授業でプレゼンテーションの準備過程を指導した成果でしょう。

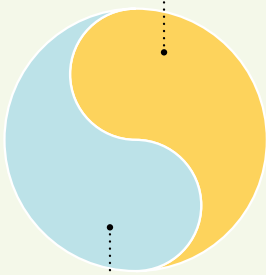
教科との連携を進めるためには、教

つながりのPoint

自校の生徒の実情を踏まえて探究学習を役割分担する

国際交流や国際理解教育が活発で、多様な価値観に接する機会が多い日吉ヶ丘高校には、社会課題に接する中で感じた喜怒哀楽を、その後の学びの原動力にすることができる生徒が少なくない。そのような自校の生徒像を若手・ミドル層の教師が確認する過程で、自校の探究学習では「リアルな体験」を重視しようという方向性が固まっていた。

リアルな体験



探究学習に必要なスキル・型

探究学習の時間では、できるだけ生徒を外に出し、他者と触れ合い、感動を味わわせる

教科学習の時間では、探究学習に必要なスキル・型を身につけさせる

学校概要

設立 1949（昭和24）年
形態 全日制／普通科／共学
生徒数 1学年約240人
2022年度卒業生進路実績
国公立大は、京都教育大、兵庫教育大、高知大、東京都立大、京都市立芸術大、大阪公立大、神戸市外国語大などに9人が合格。私立大は、早稲田大、京都産業大、同志社大、立命館大、龍谷大、関西大、近畿大などに延べ536人が合格。

師が他教科の学習内容や進度を知ることが重要だと言われますが、私はまず、育てたい生徒像や理想とする教育について教師同士で話し合うことが重要だと思っています。自分の授業や探究学習で生徒がどのように成長したか、その姿を目にした喜びを教師同士で語り合う中で、育成を目指す生徒像を共有することが出来ます。その上で、目指す生徒像の実現に向けて、「自分の授業ではこの資質・能力が育成できる」などと、自然とコンピテンシーベースでの教科間の連携が進むのがよいと考えています。

私は、探究学習と教科学習は別物とは捉えていません。別物と考える限り、教師にとって探究学習は「仕方なくやるもの」になってしまいます。未来を生きる生徒のために、そんなことはあってはならないと思っています。

お勧めの分掌

管理職

教務担当

進路担当

担任